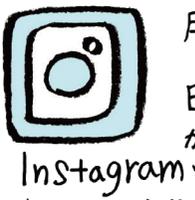


どう発信する? SNS 2019

みなさんは谷欠いものや行きたくない場所がある時、何を使って調べていますか?
小情報収集といえば「ググって、

⇒ Webサイトやブログから谷欠い小情報をひろい集めていました。ところが今は「よりロコミに近く、より自分好み」の小情報に速くたどりつけるSNSアプリで検索を行う人が増えつつあります。お店や企業はWebサイトを置いておくだけではなかなか見に来てもらえず、ユーザーにとって有益な情報を発信しつづけることが重要になってきます。Facebook, Youtube, mixi, TiktokなどたくさんのSNSがありますが、今回は3つのSNSをマーケティングの視点から見ます。



月間アクティブユーザー: 日本 2900万人
世界 101億人
日本では20代、海外では30代の女性が多く利用している。写真投稿共有のSNS。

Instagram "かわいい" "美味しそう" "オシャレ" がカギ

10代~20代のInstagramの利用者は、Googleは使わず、お店やファッション情報をInstagramで検索しています。また、インバウンド観光にも大きな影響を与えており、旅行者の約半数が「休暇の計画にInstagramを使う」というアンケート結果もありました。



- ① ハッシュタグを使い、いろんな人に商品やイベントを投稿してもらおう。
- ② 影響力のあるインスタグラマーに宣伝してもらおう。



月間アクティブユーザー: 日本 4500万人
世界 3億3500万人
男女問わず若年層のユーザーが多い。
140字でつぶやく、リツイートが定番。

Twitter "今"世界で起きていることを共有。データの宝庫。

Twitterは矢張り時間で「その瞬間」を発信することができます。若い層は積極的に感情や目の前の事象を発信しており、年齢層が上になると「リアルタイムな情報を取りにくる場所」になっています。

活用法 ツイートのデータを整理することで市場心理を的確にとらえ、新しい商品の発表のタイミングをはかたり、ファンの要望に応えた製品づくりにつながることができます。



月間アクティブユーザー: 日本 7800万人
世界 2億1700万人
幅広い年齢層で使われている連絡ツール
日本・タイ 台湾・インドネシアで使われている

LINE@ 特売やキャンペーンなどより身近な小情報を。

LINEには「ファンを拡大する」という目的をもったLINE@という機能があります。広告を流す他にクーポンやスタンプカードなどがあり、小規模な事業での成功事例も多くあります。

活用法 レジで友だち登録すると、その日のお買い物から5%OFF。
「いいね」をすると新商品が当たる! など、生活に密着したお得な情報を求められます。



令和時代IT技術トレンド予想

先日、新元号「令和」が発表され、日本はお祝いムードですね。そこで、令和時代に「きっと」トレンドになるであろう技術やビックワッアッとして、令和時代を先取りしようと思います!

通信分野

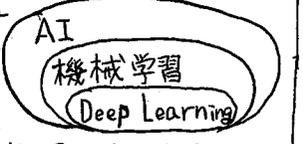
4G (2020年) 5G (2020年) 6G

今の話題は5Gです。超高速(LTEの100倍)、超低遅延(LTEの1/10)、多数同時接続(LTEの100倍)が特長です。しかし、IoT(Internet of Everything)な世界になると5Gでも不足すると言われ、6G規格も計画され始めています。その基準は5Gの10倍、100Gbps以上。当然、そのような高速通信ではエネルギーが必要になるため、デバイスのバッテリーが課題になると言われています。

AI分野

機械学習 → Deep Learning → 自然言語理解 → 自立的知識獲得

機械学習やDeep LearningはAIの処理能力を向上させる手法のこと。これまではその処理対象は人の言葉や数字が主でしたが最近ではその背景意図やイメージを処理しようという動きがあります。簡単にいうとSNSに「あの情報なうだい」と言えば欲しい情報をくれるような状態です。つまり、人が想像するイメージをAIが理解し、反応するようになります。



センサ分野

低価格化 → エネルギー・ベースレス → センサネットワーク → トリリオン・センサ

現在センサは安く50円~60円程度。低価格化が進んでいます。センサ1つあたりの値段は技術進歩でますます下がり、トリリオン・センサ(1兆個ものセンサネットワーク)が実現するもそう速くないかもしれませんが、センサを動かすにはエネルギーが必要で、そこで注目されているのがエネルギー・ハーベスティング技術。エネルギー変換技術のことで身近な例だと電卓に使用されています。(太陽光を電力に変換)

以上令和時代にトレンドになるであろう技術でした。各分野での課題がいかに解決されるかが見どころです。(押切)

